

オゾンホール発見のプライオリティ再論

根本 順 吉

私のコメントに対し忠鉢氏が早速、回答を寄せられ、これで私の妙なかんぐりが根拠のないことが当事者から明らかにされました。有難い話です。

さて、これは私のコメントの仕方が悪かったためかもしれませんが、会員諸氏は私のコメントと、忠鉢氏の回答を読まれ、はたしてオゾンホールの発見者は誰なのかわかったでしょうか。

当事者からみれば、研究は鉛のようにずっと続いているのだから、どこで誰が発見したかというようなことは全くの愚問に感ぜられるかもしれません。しかしこの流儀を拡張すると、たとえばジェット気流の発見は高層気象観測のたゆまざる発展の歴史にまで持ってゆかねばならなくなってしまいます。

年表などにあげられている発見者は、だから全く便宜的な偶像なのかもしれませんが、多勢の専門家が発見者として J.C. Farman をあげているのも事実であり、はたしてそれでよいのかということに対してはまだ回答が与えられていないように思います。

忠鉢氏が親切にも作成してくれたオゾンホール関連の年表には、不思議なことに“オゾンホールの発見”という言葉は全く見られません。しかし私への回答文では、いくらかその事情は補足されているのですが、これを読んで私が感じたことは、忠鉢氏が末尾で言われているように、“昭和基地において観測されたオゾンデータが、南極オゾンホールの発見およびその後の研究に大きな役割を果たしたことは確か”であっても、広大な空間的構造をもった南極オゾンホールの確認は NASA のストラルスキー等の業績に帰せるべきではないかということです。私なりに試みに一つの年表をつくってみると次のようになります。

「1984 年の中鉢等、1985 年のファーマン等の、それぞれ南極基地におけるオゾン変動の研究も基礎となっ

て、1986 年 NASA のストラルスキー等によってオゾンホールは確認された。」

短い年表では、もちろん前段はカットされます。これに対する第三者からの見解が聴きたいものです。

付 記

再論を書いた後、私は J. Gribbin (1988) の興味深い“The Hole in the Sky”をよみ、これによって Farman と NASA の衛星観測による確認の関係をはっきり知ることができた(同書 p 110~111)。Farman の論文が“Nature”のオフィスに到着したのは1984年のクリスマス・イブのこと、論文の掲載は1985年5月16号である。

NASA の衛星観測はこれよりもずっと早く、1978年から続けられていたのであるが、Stolarski 自身の語るところによると、衛星からのデータが人間の眼にふれる前に、DU 180 以下の値は自動的に取り除かれるよう処理されていた。これはそれまでに DU 200 以下の値はまだ観測されたことがなかったからそのように処理されていたのである。Stolarski 自身の語るところによると、これが NASA の観測が、80年代初期の hole を見のがした理由である。Farman の論文に刺激され、NASA はデータの処理をはじめからやり直し、オゾンホールの実態が明らかにされた。このような実状から考え、やはりオゾンホールの第一の発見者は Farman 等であるように思われる。

以上発見史としても非常に興味深いことであるが、Gribbin がこれから引き出した教訓は次のようなことである。

*always expect the unexpected;
never trust your models implicitly.*